

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全職員地域密着型サービスの役割を考えながら「やわらかな空間の中で一人ひとりの思いを大切に愛情豊かな援助を心がけます」という理念を掲げている。	○  地域で生活している認知症の方々を対象にデイサービスをおこなっている。今後も推進委員や関係機関と情報交換しながらネットワークを重視しサービス提供に努めたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員で理念の周知に取り組み、日々の業務の中で口に出し、意識しその実践に向け取り組んでいる。	○  管理者が理念の意味をしっかりと理解し、日々の業務の中で理念に向けた方向性を具体的に示し、全職員の意識統一に繋げていきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	誰でもいつでも、目に入る場所に理念を掲げ、家族、または地域の方々へも広報誌等でお知らせしている。また、行事の機会等言葉に一人でも多くの方々に理念についての理解が得られるよう取り組んでいる。	○  理念を耳や目から伝えていくと同時に、理念の実現に向けて実際に行動できるよう日々意識し業務に努める。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地域行事に参加し交流を徐々に深めている。ひとつの関わり、機会から交流の輪が広がり地域住民との繋がりを広めていくよう努めている。行事、広報誌等で事業所を理解していただき、いつでも気軽に言葉を交わすことができるよう、感謝の気持ちを口にし気持ちのよい挨拶をするよう意識付けしている。	○  行事以外でも、普段の生活の中でお話ボランティア等もっと気軽に訪問できるような働きかけをしていく。そのなかで当事業所がもっともっと理解されていけるようできればよい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	会議等で評価のねらい、活用方法等、職員に説明し理解して頂き、その結果をもとに具体的な取り組みを上げ努める。	○ 自己評価の内容を経験年数や、有資格別に細かくチェックできるようにし、全職員で話し合い自己のレベルチェックに活用できるようにしていく。
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に推進会議開催し良い雰囲気の中でいろいろな意見をいただき、よりよいサービス提供を目指している。	○ 会議を欠席された委員の方からも資料を届けた際意見を聞く時間を設ける。
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	推進会議には毎回参加していただき、情報提供やサービス向上のため意見等積極的にだしていただき、また日頃機会あればお互い、行き来し合い連絡取り合い情報共有に努めている。	○ 施設だけでなく、地域全体で認知症を支えていくという視点で、広報誌始め、行事、交流ある機会ごとにアピールしていく。
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会を開き学ぶ機会を以前もったが、活用の場面があまりなく理解と活用への意識はなかなか難しい。	○ まだまだ理解されていないと思われ、今後も勉強のばを設けていかなければならない。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修報告の中で虐待については幾度か出され、職員の意識の中にあることと思われるが、まだ細かいところまでの理解まで足りないと思われる。今後も学ぶ機会を持ち、今以上に虐待防止に取り組んでいく。	○ 日々の業務、対応の中で全職員が虐待の意味をしっかりと理解し意識した中でサービス提供ができるよう虐待防止に努めていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
10	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相手が理解できるよう、わかりやすく丁寧に説明している。不明、疑問点についてはその都度説明し理解、納得していただけるよう努めている。	○	契約内容について、確実に理解し知識を広げ質問、疑問にしっかりと説明ができるようにする。
11	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の対応、コミュニケーションのなかで意見や思いを聞きだす事に努め全職員で運営に反映できるように取り組んでいる。		座談会という場を設け、意見を聞く機会としているが、日々の生活の中で会話、関わりの中から不満、思い等を引き出しそれを全職員で共有し運営に反映させていく。
12	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	金銭管理、健康状態、日常の様子等毎月、または随時管理者、担当者よりおこなっている。職員状況に関しても毎月お便りの中で知らせしている。	○	広報誌の発行を定期的、または増刊としその中で施設状況、職員状況を随時お知らせしていきたい。
13	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や、苦情受付を説明書に明示。家族面会、電話連絡時等、意見をいただけるようコミュニケーションを図っている。	○	意見が出しやすいようアンケート形式にしている。またいろいろな分野ごとのアンケートを取ってみてはどうか。
14	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、ユニット会議、各委員会の活動、それ以外にも意見交換の場面づくりに努めている。出された意見を実践につなげられるよう取り組んでいる。		意見だけで止まらず、それを実践へとつなげていかなければならない。
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者により良いサービス提供ができるよう職員に理解を求め、協力的に対応できている。が時として負担かかる場合がある。	○	柔軟な対応は続けて行きたいが、職員の負担軽減のための体制の見直しもしていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	移動時には入居者への説明を十分に行なっている。業務中の各棟行き来の際もコミュニケーション常に図り入居者と全職員が顔なじみの関係づくりをしている。全職員意識し連携で行なっている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
17	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画と随時の研修参加を促し、機会を設けている。研修後の復命書提出、復命会開催し職員のレベルアップに努めている。	○	研修参加は本人希望と、各自に合った研修参加の促しも必要である。
18	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等の同業者との関わりを次へのネットワークづくりへとつなげ、それを活用しサービス向上、取り組みに対しての実践の向上に努める。年間計画に見学等各委員会活動で取り組んでいる。	○	大掛かりな取り組みとしてではなく、少しずつの交流から徐々に広げ、後に定期的な機会となってくれば良いのではと思う。
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者は職員の意見を聞く姿勢を持ち原因を明確にし、解決へつなげるよう努めている。	○	日常的にその都度職員の具体的意見を聞いている。職員の悩み、ストレス理解に努めている。休憩時間、声がけ促ししている。
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	自己評価等の機会で見聞を交わしあい、また担当、業務分担を明確にし取り組む環境づくりに努め向上心を持ち働けるよう努めている。		健康診断の実施と日々の全職員の健康面の配慮に努める。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居者、家族と直接面談の機会を設け信頼関係を築くこと意識しながらの対応を行なっている。全職員が情報の共有する事徹底していく。	
22	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時のニーズに対して何が必要か見極める。即対応できる事に関しては実行し、時間が必要であれば職員間で情報共有し意見交換しながら方策検討している。	
23	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の希望実現にむけ、家族からの情報収集を全職員で共有し本人が安心できるサービス提供に努める。	尊厳を基本の考えとし、本人の希望を叶えるため職員は代弁者とし家族との連絡密に関係を深め本人が安心できる支援に努める。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の感情を否定する事無く受け止め、理解、共感し日々の対応に努めている。共に支えあい生活している事意識し、関係づくりに努めている。	職員は、介護職としてのあるべき姿を常に意識し、より良い関係づくりに努める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族との情報交換を密にし家族の思い、感情を共感しお互いに支えあう関係を築く事に努めている。	○	その利用者、家族に合った関係づくりを見極め連絡調整しながらお互いおもい一つにし一緒に支えていく関係の構築に努める。
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の状況を伝え、家族の思い、感情を把握しながら、家族の役割を奪わないよう配慮する。		本人の思いを重視ししながら、家族状況等考慮し、関係づくりに努める。
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人のこれまでの生活を理解し、馴染みの関係が途切れないよう機会や場面づくりに努め、それを継続していく。	○	これからも、一人ひとりの思いの把握に努めその中から馴染みのものをみつけ、触れ合う機会を設ける。
28	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を職員は把握している。お互いによりよい関係が保てるよう配慮し働きかけおこなっている。		日々の生活の中で、いろいろな関わりがあった場面の申し送りで情報共有し、お互いよい関係が保たれるようサービス提供につなげていく。
29	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後も行事等機会があれば関わりを持ち関係を大切にしている。	○	地域に一つの施設であり地域に信頼されるためにも、業務上の関わりだけでない事を全職員が意識し、いつでも、どこでも笑顔、挨拶を徹底していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりのおもい、希望等、日々観察把握に努めそれに向けた対応に努めている。難しい場面でも全職員で意見交換し、対応に努めている。	○ 日々の対応の中で常に、傾聴する事意識していく。
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを綿密に本人、家族からの情報収集をも綿密にその人の生活の把握に努めている。また、プライバシー配慮しながら、近隣の人からの情報収集も行なう。	○ いろいろな情報を全職員で共有しあう。
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活の状況や、生活の中の気づきを職員同士タイムリーで話し合ったり記録により入居者の生活全てを把握するよう努めている。	○ 生活全般の把握により、その人にとって安心できる生活の実現のためのサービス提供を目指す。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスにおいて、ニーズ把握とそれに向けた支援方法を意見交換しながら、介護計画作成している。	○ 計画に沿ったサービス提供ができていない部分があり、管理者が職員の意識統一を図りながら、同じ目標の下で、誰もが同じサービス提供ができるよう取り組む。
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	各担当により、経過明記し本人の状況により見直し、継続等おこなっている。また状況変化あったときには、随時カンファレンスにおいて検討し介護計画の見直しおこなっている。	○ 話し合いおこなっているが、その文章化迅速に行い、徹底しなければならない。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者一人ひとりの日々の様子を記録し月末に、生活全般についての気づきを含め総合的に所見として記録している。日々のケース記録は全職員が関わりその人の状況が把握できるものとしている。	○	ケース記録は、時間を追って入居者の状況、それを客観的に見ての内容を今後も詳細に記録していく。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
36	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の希望考慮してできるだけ希望に添う対応をとっている。それについての勤務交代等、協力体制でおこなっている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
37	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	各関係機関とは、行事あるごとに協力いただいている。ボランティアについては広報誌等で呼びかけおこなっている。年二回消防訓練、救急法（AEDの使用方法）等実施	○	今後も関係の継続に努め、違う視点からも地域資源に目を向け関係づくり、活用できればよい。
38	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域のケアマネジャーとは日頃より情報交換をし統一したサービス提供ができるよう努力している。		
39	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	認知症の在宅生活の方の支援についての情報共有を図りながら協力体制が徐々にできてきている。	○	今後、包括との連携を強化し在宅で困っている方々の協力体制を確立していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	風間浦診療所、大間病院とこれまでの受診状況を把握し、必要に応じた受診支援をしている。地域医療機関と連携を大切に関係を築いている。	○	今後も地域医療機関とは良い関係が継続できるようにし、医療的分野での支援要請をしていく。
41	○認知症の専門医等の受診支援  専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	風間浦診療所の医師が認知症患者に大変理解があり家族からの理解がある。様々な相談に対し親身に助言くださり、入居者が施設生活が継続できるよう支援ができています。	○	今後もこの信頼関係を継続できるよう努め、入居者、家族の要望に添う対応を診療所と協力体制で実現していきたい。
42	○看護職との協働  利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員は一人ひとりの状態把握に努めている。介護員からの状態確認や入居者の日々の健康観察に努め、主治医と連絡調整しながら、通院、服薬で健康管理行なっている。		
43	○早期退院に向けた医療機関との協働  利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院前の施設での生活状況等を情報提供し入居者が入院により混乱が生じないよう医療機関との情報交換を綿密に行なっている。また、入院中も職員が交代で面会し精神面での安定を図っている。退院後のインフォームドコンセントへの参加も実施している。		
44	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期にむけての対応を本人や家族、主治医と話し合いを持ち、意思統一を図る。全職員がその事を周知しチームでの対応の徹底を図る。	○	認知症の進行により、なかなか本人の意思確認が難しいところがあるが、段階的に本人の状況に寄り添った支援をチームが一つとなり取組んで生きたい。
45	○重度化や終末期に向けたチームでの支援  重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人、家族の思いを考え、施設としてのできることで、できないことを明確にし主治医と連携で取り組んでいく。	○	その時々で対応できるよう、職員は、看護師を中心にいろいろな場面を想定し、話し合いを行ったり職員が混乱しないようマニュアル作成していく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>本人の情報提供を十分に行なう。また、前もって訪問したり本人への説明も行なっている。家族の不安や、気持ちを受け止めながら、協力する事伝えている。</p>	
<p><b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p><b>1. その人らしい暮らしの支援</b></p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
47	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>本人のプライバシー、自尊心を傷つけないよう言動には十分注意している。記録の持ち出しは禁止している。</p>	<p>○</p> <p>言葉使いの徹底を図る。</p>
48	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>個人の状況を細かく把握している事からその時々への対応、声かけで自己決定の場を作っている。職員間の情報交換が頻繁に行なわれている。</p>	
49	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>その本人に合ったペースでの生活を支援する事が心にかけている。</p>	<p>○</p> <p>一人ひとりの思いの把握に今後も努めていく・</p>
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
50	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>本人希望や、状況にあった支援を柔軟に行なっている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嗜好品を把握していることから、本人の意思に添った食事提供をしている。可能な方には調理準備を手伝っていただいている。	○	好みのもの購入を今後も継続。食事準備等でその人にとって居場所の確保に努める。
52	○本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	以前は喫煙、飲酒の習慣のある入居者についても、本人の意思や家族の希望により今は、その習慣がない。好みの飲食物については、本人と買い物に行ったり、職員が買って来たりしている。		
53	○気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	それぞれの排泄状況に合わせて誘導、見守り支援を行いできるだけパットやオムツはずしに向けた自立を促す取り組みをしている。トイレ拒否があるときは、職員間で話し合い本人にむりのないような支援を検討していく。		
54	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの入浴方法を把握し、計画的に進めるほかにその時々で柔軟な対応をしている。	○	自宅で入浴するように、いろいろな入浴剤でリラックス効果を促進する。
55	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その日の活動や日中の出来事等、疲労状態により、休息を促したり、本人の意思で自由に休んでもらうよう配慮をしている。	○	できる限り本人の意思を尊重し、リラックスできるような環境を整えていく。
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握した中で軽作業を進めてみたり、本人の望む活動ができるよう自発性を大事にした支援をする。それによりかっきのある生活が送れるよう努める。	○	今後も作業する事で生活にメリハリをつけ活気ある生活支援を進めていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は家族の希望にて施設管理の入居者が多いが、数人は本人希望で小額を所持している。買い物時、支払いは見守りにて本人がおこなう。		
58	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その時の状況や体調等を考慮して、ドライブ、買い物等の外出支援を柔軟に対応している。	○	今後も入居者の希望に添って外出の機会を増やし気分転換を図っていく。
59	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間の計画を立て、季節、気候を考慮し家族の参加も促しながら、実施している。	○	一泊旅行ができなかったが、日帰りでも今後参加できる入居者について計画、実施していきたい。
60	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の状況や希望に応じ電話での対応をしている。家族、や大切な人への年賀状を実施している。	○	状況に応じて、継続していく。
61	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつも訪問できるよう、柔軟に対応していることを伝え、家族とのコミュニケーションを図っている。出迎え、見送りを必ず行い来て頂いた事への感謝とまた来て頂く事への願いを心をこめた挨拶にて徹底している。		気軽に来ていただけるよう、全職員誠意を持って対応する。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
62	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員身体拘束の内容を理解し、その弊害についても理解し原則としておこなっていない。やむを得ず行なう場合はその理由、期間、方法を説明、理解して頂くと共に、書面にて同意を得る。拘束期間は詳細に記録をとり、原則として拘束は必要最小限とし、状況が安定したときはすぐに拘束解除する。	○	拘束のない入居者本意の生活を実践していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、居室入り口、玄関は施錠していない。チャイムにて出入り確認している。	○	入居者の自由を奪わない生活の実施。チャイムの音に留意しながら今後も自由を奪わない支援をしていく。
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	一人ひとりのプライバシーを尊重しながら、職員間の申し送りの徹底や日常の声の掛けあい等で入居者の安全確保に努めている。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	置き場所の工夫やその都度の本人への説明をしていくことでまったくなくす事のないよう環境整備している。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者の状況に応じ想定される事故に対し、全職員で検討し情報交換し防止に努めている。誤薬は服用前に二人確認、声だし確認。避難訓練は全員参加で年二回実施。常に危機感もち、業務に当たるよう取り組んでいる。		
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時や自己発生時の対応についてマニュアル化がなされている。救急救命法は年一回実施AED講習も受けている。		
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間、日中想定で年二回避難訓練実施。緊急時の地域協力の働きかけも行なっている。非常時のため食料飲料水を一定の場所に準備している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	全職員がその入居者に起こりうるリスクを把握しそのリスクや防止対策について家族に説明している。本人の意思を尊重しながら、リスク回避の防止対策をその時々状況に添って家族に伝えながら家族の理解と協力を得ている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
70	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入居者の疾病、体調について全職員把握し毎日の健康管理に努めている。体調変化の際のバイタルチェックや、看護職員への報告、指示を仰ぐ等迅速に行なわれている。		看護職員より、入居者に起こりえる状態等早期発見できるよう、症状についての説明を会議、日々のケアの中で伝達していく事継続していく。
71	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時職員二名のダブルチェックの徹底。飲み忘れないよう職員間の声のかけあいおこなっている。薬変更時看護職員より内容、副作用の説明にて職員の周知に努めている。		
72	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	職員は便秘の原因とその及ぼす影響を理解し水分量の把握、食事改善、運動、散歩、腹部マッサージ等で便秘予防に取り組んでいる。安易に薬に頼らないようにしている。	○	薬に頼らない、運動等にて便秘改善に取り組み、自然排便ができるよう今後も継続。運動内容工夫。
73	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアの徹底に取り組んでいる。舌苔のある入居者は舌ブラシ使用、歯茎炎症ある入居者は軟らかめ歯ブラシにてブラッシングマッサージ行なっている。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分食事摂取量記録し食欲不振等確認されたとき、看護職員報告し指示を仰ぐ。また代替品や栄養バランスを考慮し食事の工夫している。	○	入居者状態観察に努め、食事量の確保に全職員で取り組む。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	施設独自で感染予防マニュアル作成。誰でも目に付くよう掲示している。施設内塩素系消毒と感染経路強いところ掃除の徹底に努めている。職員は個々の消毒スプレー携帯し入居者の手洗い、うがいの励行と必要性の説明、確認に努める。	○	引きつづき、感染予防に全職員で取り組んでいく。
76	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒、感染症防止のため、掃除、消毒の徹底。食器熱湯消毒、エプロンの使い分けの実施。食材の管理方法、調理方法の周知徹底。食事の安全管理のため、一週間分の調理済み食材保管しながら食の安全に努めている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	毎日の玄関掃除により、気持ちよい空間作りに取り組んでいる。プランターや花壇整備によりホーム内外心地よい空間作りに努めている。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある居心地よい空間づくりに配慮している。また、入居者が手がけた作品を飾る事により満足感、次への意欲へとつなげていけるよう配慮している。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内でも入居者の状況に合わせソファの位置を変えるなどして思い思いに過ごせるよう工夫している。	○	入居者同士の関係も考慮しながら、そのなかでゆったり楽しめる空間の工夫をする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	本人の希望、使いよさ考え、畳、フロー アール等対応している。これまで生活 の中で使っていたり身近にあったもの を持ってきていただくよう、お願い し自分の家という意識になっていただ けるよう、努めている。	○	馴染みの物を持ってきていただいでい る入居者もいるが、まだまだ少ないよ うに感じる。今後も家族にお願いし、 少しずつでも私物で囲まれての生活 が出来るよう進めていきたい。
81	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気よどみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と 大きな差がないよう配慮し、利用者 の状況に応じてこまめに行っている	全職員、臭いに敏感で換気には十分 気を配り窓の開け閉め等行っている。 一日二回の気温、湿度確認記録し 目安とし管理に努めている。日中は 入居者の状況や、声を聞き、対応も している。	○	入居者と、職員の体感温度等の違い を十分理解、考慮し健康的に快適に 過ごせるよう今後も続けていく。
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を 活かして、安全かつできるだけ自立 した生活を送れるように工夫している	床面、バリアフリーになっているが、 畳に段差がある。が、極力足の運び がスムーズに行くよう傾斜と滑り止 めで工夫している。ホール、廊下、 居室内に手すり設置されている。		
83	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、 混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせ るように工夫している	一人ひとりの認知度を全職員が把握 しそれぞれにあった説明がされてい る。その人が分かる私物や印など、 失敗や混乱を防ぐ工夫をしている。 個々の支援を統一する事でスムーズ に生活できるよう努めている。		
84	○建物の活用  建物を利用者が楽しんだり、活動で きるように活かしている	ホールの広い空間をレクやリハビリ 等で利用している。又両棟の行き来 をとうし、行動範囲広がり開放感も 感じていただいている。畑、花壇で 作業したり、ベンチに座り風に当た り思い思いに過ごせる場を設けてい る。		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地域行事への参加や、施設での行事に地域の方々を招き進めてきたが、まだまだ身近なものとして感じていただけないところがあるように感じる。隣の家に遊びに行く感覚で来ていただけるような簡単な触れ合いの場的な機会が出来ればよいのではないかと思います。そこから、デイ利用者の獲得、介護に関する相談など、ネットワークをすこしづつでも広げ、この施設の理解と運営にプラスとなっていければよいかと思います。